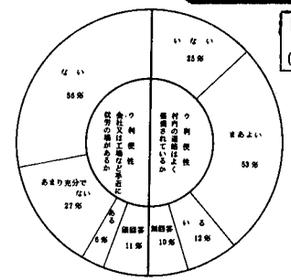
月潟村の将来像を考えるために

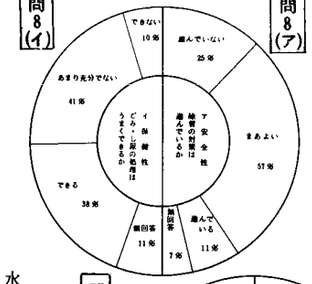
シリーズNo.2

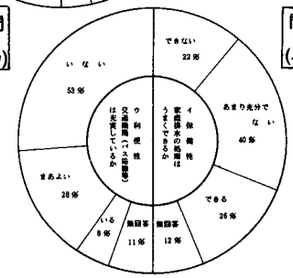
農村総合整備住民意向調査結果から

前号から掲載しております「農村総合整備計画」策定における住民意向調査について、今回は主に「環境面」に対するものを中心にお知らせいたします。

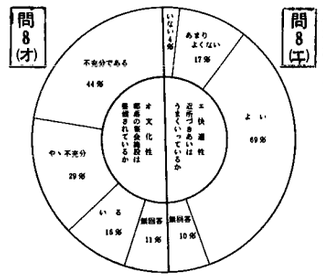
問八　あなたは月潟村全体からみて次の項目についてどのように感じていますか。







ごみ、し尿処理については、不満であるのが約半数あるが、これは大型ゴミの収集回数が少ないことと、化学性廃棄物の処理場がなく、加れて一般ゴミ収集場所が衛生的でないためのもので整備が要求されています。



道路は、整備されているとまあまあよいが六五%と多いが、これは幹線道路についての評価であると見られ、集落内道路についてはまだまだ不満が多いと考えられます。

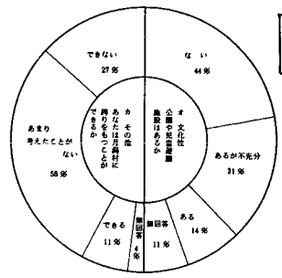
手近に就労の場があるかについては、本村の企業は家内工業的な零細企業が多いため、就労の場がないとあまり充分でないが八三%を占めています。今後工場誘致などをおし進めていくことが必要と思われます。

近所づきあいは、六九%の人がよいと答えており、だいたいうまくいっているようです。

部落の集会施設については、不充分である人とやゝ不充分の人が圧倒的に多いが、これは部落に集会施設がなかったり、あっても老朽化のため機能を充分に果たさないためであります。地域連帯感を図る上からも施設の整備を早急に進めていく必要があるといえましょう。

子供の教育については、不便である人とやゝ不便である人を合わせると、五三%となり、約半数の人が教育のことでなんらかの不便を感じていることがわかります。このことは、義務教育施設の不備や通学に対する不便もさることながら、高校が近くに少ないことから不便を感じていることが多いと思われます。

スポーツ、レクリエーション施設としては、小中学校と西公民館を利用しているが、設備も完備しておらず、又、学校施設の併用という面からの不便も多いことから、グラフのようなアンケート結果となって表れています。村民の体位の向上のために、この整備は必要であると言えましょう。

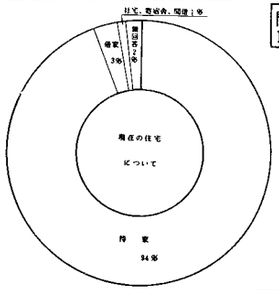


公園や児童遊園は、月潟村には児童遊園が四ケ所あるだけなので、それが七五%の不満となって表れていることと思われます。村内に安らぎと憩いの場をつくり、住みよい村づくりをはかる必要がありましょう。

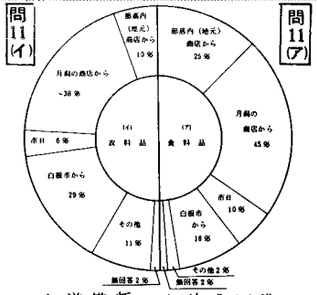
月潟村に誇りをもつことができるかという問に対しては、あまり考えたことがない人が半数以上を占めており、月潟村に対する無関心さがうかがわれます。

問一〇　あなたの住宅についてお伺いします。

現在の住宅については、農村であるために、ほとんどの人が持家に住んでいることがグラフよりわかります。又、持家に住んでいる人の将来の住宅計画は、六九%の人が増築又は改築を望んでおり、必ずしも現在の持家で満足していないことがうかがわれます。



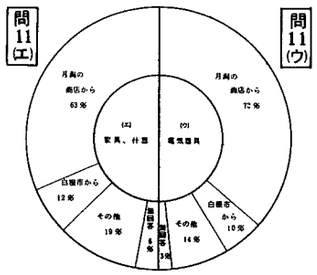
除雪対策については、進んでいるとまあまあで六八%であり村民はほぼ満足しているが、進んでいないが四分の一あり、これは主に集落内道路が狭あいのため除雪作業がうまくいかないものと見うけられます。



問一一　あなたは買物をするとき、主にどこで買いますか。

家庭排水の処理については、排水路が不備のための不満から、充分でないとできないが六二%となっており、整備が急がれます。

交通機関は、充実していないが五三%と多いのは、電車よりも郡内を結ぶバス路線が皆無に近く、このための不満であると思われます。

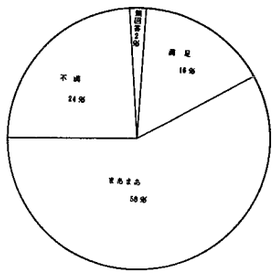


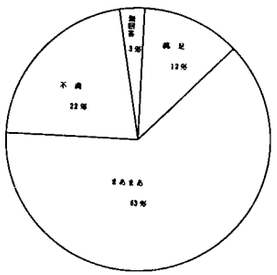
村民の買物先は、衣料品を除くと村内商店からが六三～七三%と圧倒的に多くなっています。又、白根市などの隣接市町村からの購入は、自家用車の普及により容易に行けることと、通勤のかたわら購入するケースが多いと考えられます。特に衣料品は、その割合が多いようです。

問一二　月潟村の交通安全対策について

村の交通安全対策については、満足である人とまあまあの人が七四%を占め、ほぼ満足しているようですが、反面、不満である人も約四分の一おり、この意見を見のがすことはできません。

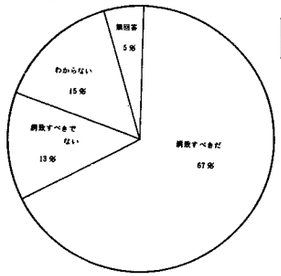
不満である人の理由は、歩道の新設を望む人が四〇%、施設の整備を望む人が三九%です。今後、道路の整備と併せて、整備していかなければなりません。





問一三　月潟村の防災体制についてどう思いますか。

村の防災体制については、全体の七五%の人が、満足、まあまあと答えており、白根市を中心とした広域消防体制が確立しているためと思われます。不満の人は、防護柵や消火栓、防火水槽などの施設の不備を訴えており、これらの整備が必要と言えましょう。

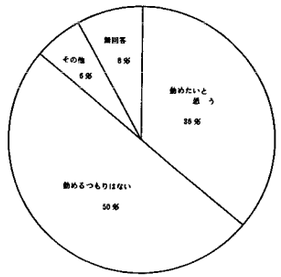


問一四　あなたは工場誘致についてどう思いますか。

工場誘致すべきだという人が六七%を占めており、工場誘致に対する村民の強い希望がうかがわれます。

又、一三%を占める誘致反対の理由としては、公害発生による環境悪化が一番多く、誘致反対者の六二%を占めています。このことは、今後、工場誘致を推進していく上で、村の環境保全とのバランスを考えてほしいという村民の強い要望のあらわれであると言えましょう。

誘致工場の希望としては、精密機械製造、食品製造、電気器具製造の順で多く、この三種で約六〇%である反面、鉄鋼が五%と少ないことから、公害の少ない工場を村民が望んでいることがわかります。



問一五　あなたは近くに適当な工場ができたら動めたいと思いますか。

前問の工場誘致に対しては、賛成者が、六七%であったものが、この問に対しては動めたいと思う人が三六%しか無く、動めるつもりがない人が五〇%も占めています。このことは、このアンケートに対する回答者が世帯主が多く、又、年令的には、三〇才～五〇才の人が多いことと関連があると考えられます。

動めたいと思う人の希望としては、年間を通して動めたいが五六%、臨時又は季節工として動めたいが三七%あります。